

長崎市中心部の交通結節等検討会議（第2回）

— 国道2号等 神戸三宮駅前空間の事業計画『中間とりまとめ』 —

令和元年 8 月 30 日 14 時 00 分
資料配布 近畿地方整備局
兵庫国道事務所
(神戸市 同時発表)

神戸三宮 未来型駅前空間の創出に向けて

～ 国道 2 号等 神戸三宮駅前空間の事業計画「中間とりまとめ」～

国道 2 号等 神戸三宮駅前空間の整備について、国土交通省と神戸市は、昨年 8 月に新たな未来型の駅前空間の創出に関する整備方針をとりまとめ、民間事業者等の知見を広く取り入れながら、関係者とともに、事業計画の検討を進めてきたところです。

このたび、集約型公共交通ターミナルの整備を含む事業計画の「中間とりまとめ」を策定しましたので、お知らせいたします。

今後は、事業計画の深化を図るための検討会を設立し、産学官連携の下で今年度内のとりまとめに向けて検討を進めます。

■中間とりまとめのポイント

○国道 2 号等 神戸三宮駅前空間の将来の姿

- ・「ひと・モノ・交通が行き交う新たな“港”＝未来型駅前空間」の創出に向け、4 つの基本コンセプトを備え持つ空間を 5 つの整備方針のもと実現。
- ・点在中・長距離バス停が集約された新たな中・長距離バスターミナルと 6 つの鉄道駅とまちを接続し、新たな交通結節空間を創出。

○集約型公共交通ターミナル

- ・中・長距離バス停の段階的な集約、神戸らしさが演出された充実したバス待合空間の整備とともに、2 次交通として、多様なモビリティなども利用できる交通結節点を整備し、乗換・待合環境を改善。
- ・再開発ビルを一時滞在施設として活用するとともに、新バスターミナルを帰宅困難者の輸送拠点や災害時の物資輸送拠点として活用し、安全・安心な空間を創出。

○乗換え利便性や回遊性を向上する「3 層のネットワーク」整備

- ・道路を人と公共交通優先の空間に転換する「三宮クロススクエア」により、“ひと”中心の空間を地上に整備。
- ・デッキにより、「三宮クロススクエア」と「再開発ビル」の賑わいをつなぐことで、一体となった賑わい空間を創出するとともに、神戸三宮駅前空間の回遊性を向上。
- ・地上およびデッキと一体となって賑いを創出し、歩きたくなるような地下空間を創出。

なお、兵庫国道事務所 HP の下記 URL に詳細版を掲載しておりますのであわせてご覧ください。
<https://www.kkr.mlit.go.jp/hyogo/kobesannomiya_ekimaekukan/index.html>

<取扱い>

<配布場所>

兵庫県政記者クラブ、神戸市政記者クラブ

<問合せ先> 近畿地方整備局 兵庫国道事務所

副所長 中島 廣長(なかじま ひろなが)

TEL 078-334-1600 (代表)

神戸市 都市局 都心再整備本部 都心再整備部 都心三宮再整備課

事業推進担当課長 鷺尾 真弓(わしお まゆみ)

TEL 078-984-0305 (直通)

ひと・モノ・交通が行き交う新たな“港”＝未来型駅前空間の創出

4つの 基本コンセプト

人の交流の拠点となる
象徴的な空間に

交通とモノが行き交う
新しい交通結節点に

進取の気性
あふれる環境に

神戸が培ってきた経験や
知恵を活かした空間に

5つの 整備方針

①魅力的な駅前空間の整備
及びまちの回遊性向上

②中・長距離バスターミナル整備
によるモーダルコネクの強化

③まちの
防災拠点

④未来志向の
移動支援導入

⑤ 国道2号周辺の
交通円滑化

～6つの駅と点在する中・長距離バス停をひとつに～

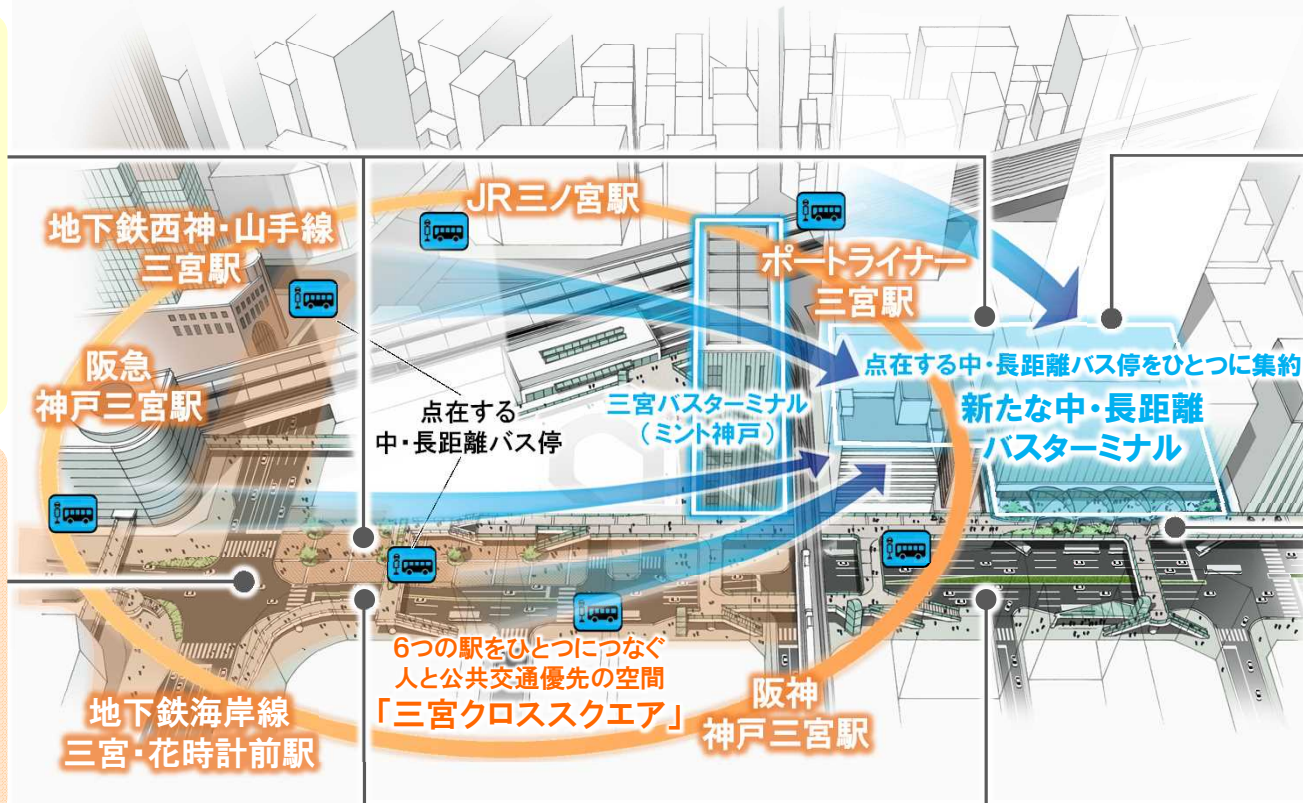
防災都市・神戸の 駅前防災拠点

三宮クロススクエアの
オープンスペースに
一時退避場所等を整備

再開発ビルを代替輸送
拠点、物資集積拠点等
に活用

魅力的な駅前空間 を創出する 三宮クロススクエア

道路を人と公共交通優先
の空間に転換する「三宮
クロススクエア」により、
“ひと”中心の空間を地上
に整備



※イメージであり、整備内容を決定するものではありません

集約型公共交通 ターミナル

中・長距離バスや新たな
モビリティなど、多様な
モードを利用しやすい新た
な交通結節点を整備

人の賑わいと回遊性 を創出するデッキ

三宮クロススクエアと再開
発ビルが一体となった賑わ
い空間の創出や神戸三宮
駅前空間の回遊性を向上
するためのデッキを整備

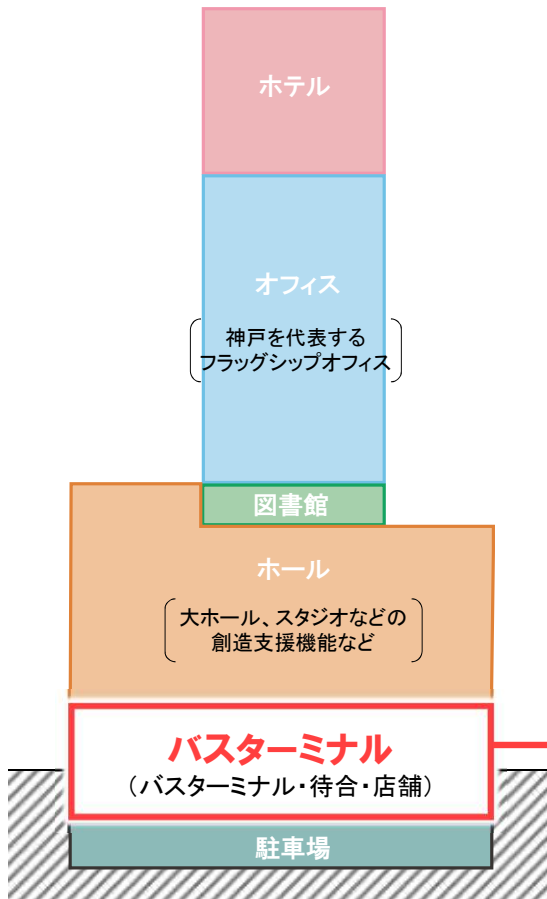
回遊性を向上させる モビリティネットワーク

道路や神戸三宮駅前空間
の回遊性を向上させる
新たなモビリティネットワー
クを構築

集約型公共交通ターミナル<概要>

再開発ビル

業務機能、宿泊機能、商業機能、大規模ホール、図書館をはじめとする文化・芸術機能などの多様な機能とバスターミナルなどが一体となって、賑わいを創出。



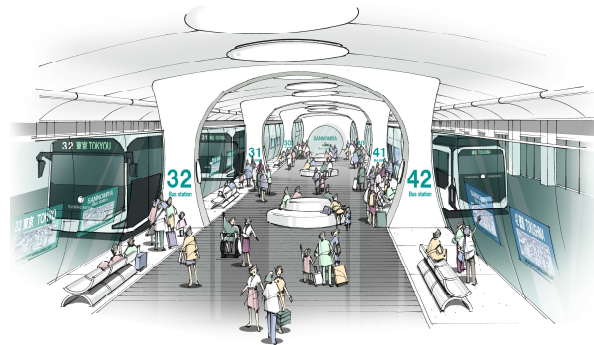
<再開発ビル(Ⅰ期)の構成イメージ>

バスターミナル

中・長距離バス停の段階的な集約、神戸らしさが演出された充実したバス待合空間の整備とともに、2次交通として、多様なモビリティなども利用できる交通結節点を整備し、乗換・待合環境を改善。



<バス待合空間のイメージ>



<バス乗降空間のイメージ>

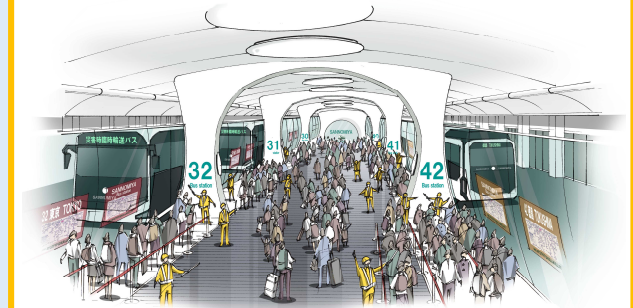
防災拠点

再開発ビルを一時滞在施設として活用するとともに、新バスターミナルを帰宅困難者の輸送拠点や災害時の物資輸送拠点として活用し、安全・安心な空間を創出。



出典) 東京都防災ホームページ

<一時滞在施設>

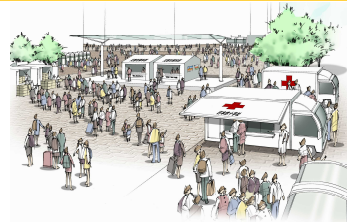


<バスによる帰宅困難者の輸送イメージ>

災害時の連携

三宮クロススクエア

屋外空間を活用し、一時退避場所や多言語に対応した案内・サインなどの各種防災機能を導入。

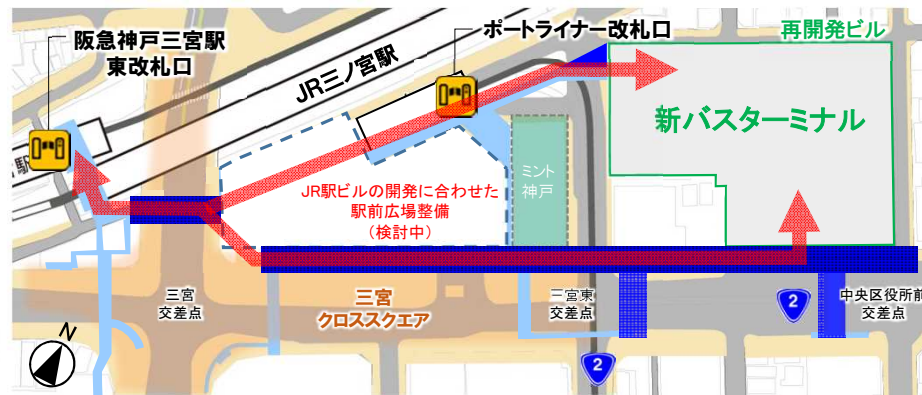


乗換え利便性や回遊性を向上する「3層のネットワーク」整備<概要>

デッキ

人の賑わいと回遊性を創出するデッキ

- 「三宮クロススクエア」と「再開発ビル」の賑わいをつなぐことで、一体となった賑わい空間を創出するとともに、神戸三宮駅前空間の回遊性を向上。
- またデッキの架け替えなどにより、現在デッキ上にある段差について、バリアフリー化。
- 鉄道駅とバスターミナルなど「交通施設」同士をわかりやすくつなぐ乗換え動線や滞留空間として機能。
- 歩車分離により、安全な歩行空間を創出。



■ デッキ(新設または架け替え) ■ デッキ・横断歩道橋(既設)

※イメージであり、整備内容を決定するものではありません

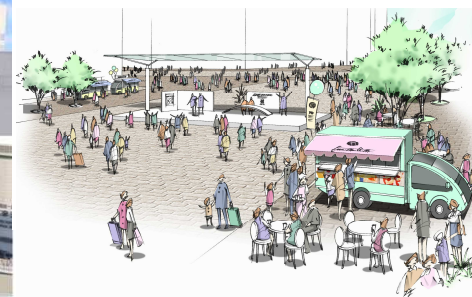
地上

人と公共交通優先の魅力ある空間

- 歩くことが楽しく巡りたくなるまちを目指し、道路を人と公共交通優先の空間に転換する「三宮クロススクエア」(2025年頃から段階的に整備を予定)により、“ひと”中心の空間を地上に整備。
- 落ち着いて憩い滞留できる空間、周辺の民間施設と連携した賑わいと活力があふれる空間を創出。
- 「交通施設」と「まち」をつなぐ動線として機能。



2030年頃の三宮クロススクエアの整備イメージ
(三宮交差点より東を望む)



賑わいと活力があふれる空間

地下

地上およびデッキと一体となって賑わいを創出する空間

- 地上およびデッキと一体となって賑わいを創出し、歩きたくなるような地下空間を創出。
- 「商業店舗」へのアクセスを主としながら一部の鉄道・バス等のための乗換え動線として機能。
- 周辺民間施設の開発に合わせたネットワークの拡充や見通しの改善。

ボイド(コアとなる縦動線)の整備



国道2号等神戸三宮駅前空間の整備方針 ひと・モノ・交通が行き交う新たな“港”＝未来型駅前空間の創出



駅及び国道に直結する中長距離バスターミナル、「えき～まち空間」及び「三宮クロススクエア」の整備によりひと・モノ・交通が行き交う新たな“港”となる未来型駅前空間が誕生。駅・みち・まちが一体的に生まれ変わります。

三宮駅前はこう変わります！

魅力的な駅前空間の整備 及びまちの回遊性向上



三宮クロススクエアの整備や駅前広場の再編等により、魅力的かつ行き来しやすい駅前空間を創出



中長距離バスターミナル整備 によるモーダルコネクト (交通結節機能)の強化



分散するバス乗降場を集約するとともに利便性等を高め、交通結節機能を強化

えき～まち空間
三宮の6つの駅とバス乗降場をあたかも1つの「えき」とみなし、周辺の「まち」と一体的につながることで、乗り換えや「まち」への行き来がしやすい空間。

まちの防災性能の向上



非常時に待機・避難場所等として機能する屋外空間など、まちの防災性能を向上

未来志向の移動支援導入



自動運転やパーソナルモビリティなど、新たな技術導入を見据えた空間を整備

国道2号周辺の交通円滑化



デッキによる歩車分離や交差点改良等によりバスターミナル前の国道2号の交通を円滑化



国道2号等神戸三宮駅前空間の整備方針 神戸三宮駅が抱えるさまざまな課題



まちの課題

- ・兵庫・神戸の玄関口である三宮駅前の更新が進んでいない。
- ・駅からまちへのつながりが弱く乗り換え動線がわかりにくい。



復興優先で更新が進んでいない三宮駅前

都市交通の課題

道路（国道等）の交通

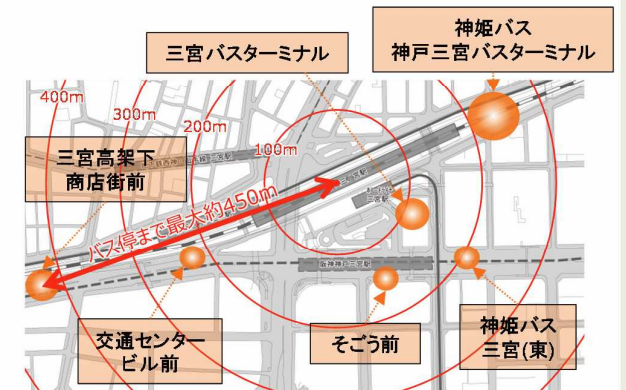
三宮駅付近の国道2号上交差点において、交通混雑が慢性的に発生している



歩行者や自動車で混雑する三宮東交差点

バス交通

中長距離バス停が6つに分散しているためにわかりにくく、利便性や安全性に欠けている



6つに分散する中長距離バス停

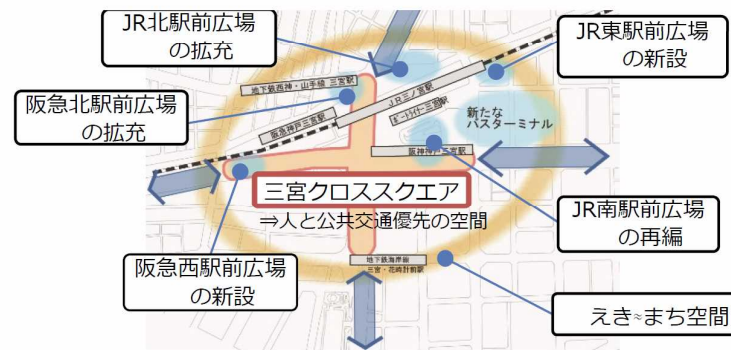
国・市の連携のもと、国道2号と一体となった新たなバスターミナルを整備
「えきまち空間」との相乗効果により、モーダルコネクト（交通結節機能）を強化

新たな中長距離バスターミナルの整備

立体道路制度を活用して、分散する6箇所のバス停を集約し、安全でわかりやすいターミナルを整備



「えきまち空間」の創出



神戸の玄関口にふさわしい公共空間を官民連携で創出しながら、駅とまちを有機的につなぐ「えきまち空間」を実現